

日本の縁起玩具

—資料ノート—

志 摩 弘

日本の郷土玩具といわれるもののなかには神仏への深い信仰と祈りとつながりをもっているものが少なくない。神社、仏閣の縁日にはかならず「神々の宮におまいりして求めてくる器物」という意味から生まれたみやげものが売られ、信仰深い人たちの手によって求められて、子どもたちへ与えられた。それは虫除け《犬、鳥の土人形》岡山県吉備津神社▽鳩の瓦人形△愛媛県伊佐爾波神社▽土製の虫切鈴△山梨県金桜神社▽土製の虫切鈴△香川県琴平▽他《や、疫病除け》弾き猿△宮崎県住吉神社▽土製の友引人形△京都市山城▽瓦製のお牛さん△和歌山市高野寺▽土製の猿乗り馬・子抱き猿△長崎県▽他《の》ものであったりする意味があつて、これらはすべて縁起玩具と呼ばれて、他の郷土玩具とは区別されていたようである。

子どもの欲しい夫婦は神仏に祈った。子どもは

神仏が授けてくれるものと信じていたからだ。子どもが生まれれば、早速神仏におまいりして、子どもの健やかな成長と幸福を、さらに神仏の加護を願うならわしに生きてきたのである。

そしてこれは、親たちの、子どもが健康に幸福に成長して欲しいという子どもに対する祈り—愛情—を、神仏をとおして形あるものに代え、みずからのあかしにして、そのあかしを、いつとなく玩具という形に変化させていったのではないかと思われる。

この信仰から発生し子どもの友となった玩具が縁起玩具といわれる一群の玩具と考えていいと思う。郷土玩具には、このほかに、子どもの遊びのなかから発展したものも当然含まれていいるのだが、本稿では縁起玩具だけにとどめた。

この縁起玩具が今日では、その本来の意義—固

有の目的—が見失なわれ、一部の郷土玩具愛好家の蒐集の対象として形骸化してしまっている事実を、医学、ことに小児科学の研究がすすみ、日本の育児法も、往來の迷誤邪徑から脱して科学的な視点から、迷信を排す—ということからやむを得ないことと受けとめねばなるまい。

しかし、日本固有の民間信仰から起源した縁起玩具をこのへんで一度整理して、これをとおして日本における育児法を史的に観察しとらえておくことは、漸次その資料の消滅しつつある現在では、必要かつ意味のある仕事だと思ふし、資料蒐集の、あるいは調査が今後ますます困難になるであろうことが予想されるに及んで、その感を一そう深くするものである。

本稿は、このような考えから着手した、縁起玩具研究のうちの「妊娠・出産の縁起に関する玩具」編の資料ノートの一部である。

※紙数の都合で全部発表できなかった。補遺の機会を待ちたいと思う。

※なかには同一物で、二、三の目的を兼ねるものもあるが、混乱を避け、他の目的については言及しなかった。

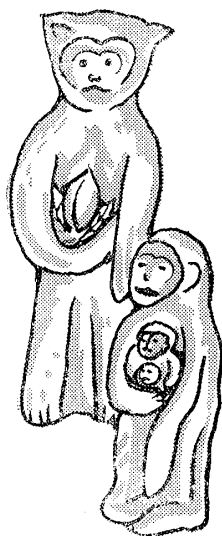
①瓦 猿（和歌山市）

栗林八幡宮境内の日吉神社へ安産、子授けの祈願をする際に奉納する猿で、江戸時代初期に城下町の瓦職が作りはじめたといわれている。

安産の祈願には、神社より奉納してある人形（瓦猿）一体を借り受けて神棚に祀り、出産後新たに一体を買い求めまたは手作りで二体として奉納する。

普通の人形は、桃を両手に抱いた型だが、子猿を抱いたもの、何物も抱かない型もある。奉納されている人形の背部に「心願成就御礼」のへら彫りの文字のある手作りの人形も多い。

起りは、猿の出産の軽い故とするものと、猿が山王の使者であるところから山王のサンを産にかけた故とする二説がある。



②守り犬（奈良県法華寺）

泥製の手捻りで作られたかわいらしい犬で、大は菊、中は若松、小は朱の五点が描かれ、どれも赤い首輪をしている。

これを産婦の枕もとまたは神棚、仏壇に安置して信仰すれば安産するという。

天平の頃（七二九～六五）光明皇后が一、〇〇〇度の護摩供養を行い一七日の間法華経を読誦してその灰を後の山の土にまぜ御手ずから土の犬を作り衆生の病苦、難産等を除くため作られたのが起りという。

中型は昭和四五年（戊戌）の年賀切手の図案に登場している。



③饅頭喰い（京都市北野）

東向観音寺境内の「白衣観音」またの名「子貫い観音」に安産を祈願して奉納した人形一体を借り受けて神棚に祀り、出産後新たに一体を買い求めて二体として奉納する。

「子貫い人形」という特殊の人形が昔はあったようであるが、いつしか絶えて伏見人形の「お乳母」または「饅頭喰い」等を以って代用するようになった。

「饅頭喰い」は、ある親がわが子にむかい両親のうちどちらが好きかと問うたところ、無言で手に持った饅頭を両分してみせたと伝えられる人形である。

この伏見の土人形は、粘土をこねて型に入れ、型から出して乾燥し、それを窯に入れて素焼きし、その上に胡粉を塗って彩色したもので、関ヶ原の戦い（一六〇〇年）に敗れた宇喜多秀家の遺臣が京都で作り始めたのが伏見人形の始まりとさ



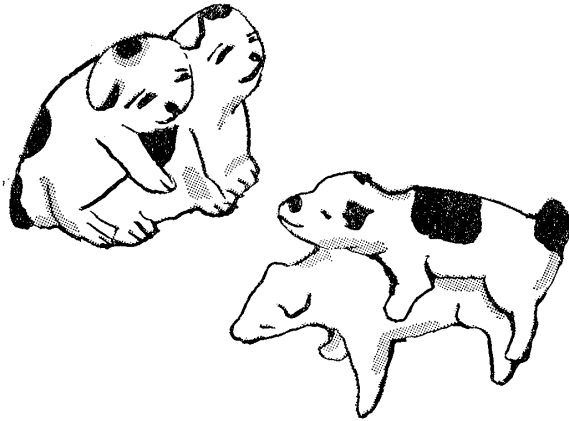
れており、この伏見人形が全国の土人形の源流となり、各地に伝えられたといわれている。

伏見人形の特長は、型の種類が豊富で、かつては三〇〇〇点にも及んだともいわれている。

④和合犬 (大阪府住吉神社)

住吉人形で、安産の呪ない、そのほか夫婦和合、子孫繁栄の呪ない人形として有名である。

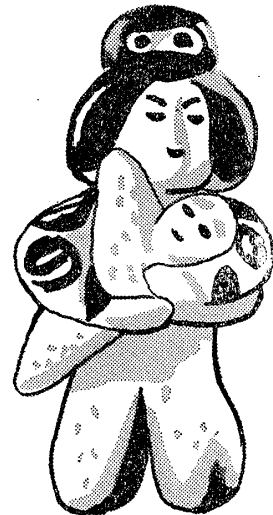
交尾している犬の姿を型どったもので「むつみ犬」ともいう。二種あり、犬の出産の軽い特性に結びつけたものと考えられる。



⑤種貸しさん (大阪府住吉神社)

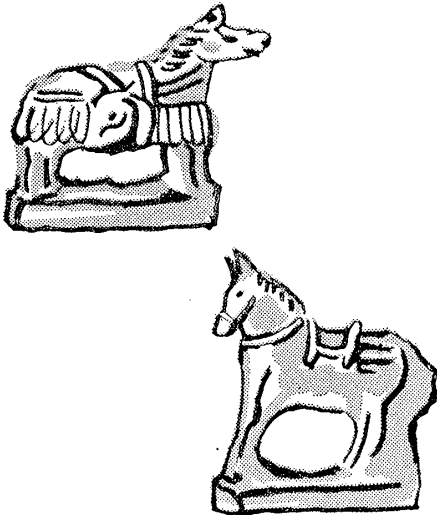
住吉人形の一つである。住吉神社の境内の苗見

神社 (五穀豊饒の神) で、良い種を授けるといいう信仰が人間の子種に結びつき、いつの間にか子宝信仰に変わったものであろう。



⑥土馬 (和歌山県珊瑚寺信尾稲荷)

安産を祈願して、一体の土馬を稲荷から借り受けて神棚に祀り、出産後新たに一体を買い求めて



二体として返納する。

素焼きの褐色で、埴輪のような素朴な感じで、明治のころ作られた馬の種類は一〇種余あったといわれている。

⑦子育人形 (東京都・上野清水堂)

寺よりこの人形を受けて、これを包みのまま清浄な場所に安置して、朝夕観音の喝

南無大悲利生観世音菩薩

便生福德智慧之男

便生端生有相之女

オンバサラ・ダルマキリソワカ

と三回ずつとなえて祈ると、子無きものは子どもを得、生まれた子どもは息災に育つといわれる。

出産の後は別に人形一体を新たに買い求めて二体として、堂内に安置してある子育観音厨子内に納める。

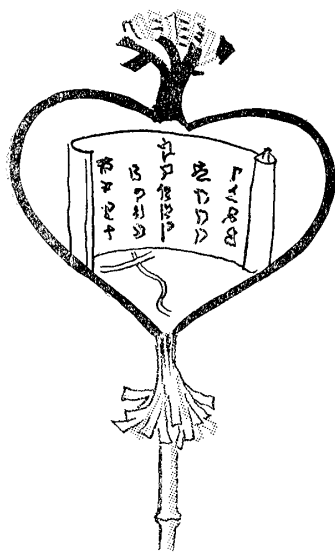


⑧唐招提寺宝扇（奈良県）

唐招提寺で、毎年五月一九日におこなわれる梵網会（盧舎那仏―地上に現われた釈迦は、仮の姿であって、釈迦の本身として全宇宙に遍満する真実の仏身で、東大寺の大仏として親しまれている―説菩薩心地戒品へ略して梵網経）を講読する行事で、この日は唐招提寺の中興の開山覚盛へ大悲菩薩といわれるVの忌日である）で撒かれるものである。

俗に団扇撒会といわれている。形はハート型に紙張りをし丸竹の柄をつけ、紙には梵字が木版刷りになっている。一名を宝扇ともいい、これを得たものは安産の守りとなるという。

覚盛上人が、修行中蚊や虻になやまされているのを弟子が追い払おうとしたところ、上人がそれをとめたため、師の身を案じた弟子が、団扇に魔除けの文字を書いて祈ったのが起りとされている。



る。

⑨子育て木馬（福島県・三春）

馬産地として知られた旧三春藩領で作られてきた木馬で、東北地方での駒といえば、青森県八戸の「八幡駒」、宮城県仙台の「木下駒」、そしてこの「三春駒」が代表的な木馬である。

「子育て木馬」というのは、「三春駒」と同型の最小のもの（三センチ程）をいう。

この「木馬」を神棚に祀り、日々大豆三粒を供えて祈ると子を得るといわれている。

伝えられるところによると、その昔、坂上田村麻呂東征の折に太多鬼丸という賊と、三春の地で戦い、苦戦に陥ったとき、京都清水寺の延鎮上人が仏像を彫刻した残りの木で刻んで戦勝を祈って贈ってくれた「鞍馬」（木馬）一〇〇頭がいくつからともなく現われて田村麻呂の軍を助け、戦いを勝利に導き、やがて「鞍馬」は姿を消してしまった。その翌日一頭の「鞍馬」が高柴部落のあたりで全身汗まみれになっているのを里人杵阿弥がみつけ、九九頭の「鞍馬」を刻んで補ったが、その一頭も三年の後行方がわからなくなってしまった。杵阿弥の子孫はその後もその「鞍馬」を模して作り続け、そのいわれを人々に伝え、作った「鞍馬」を里人や子どもに与えたところ、子どもは健康やかに成長したという。そこで「子育て木馬」と

いわれるようになった。

昭和二九年（午歳）の年賀切手に登場した。



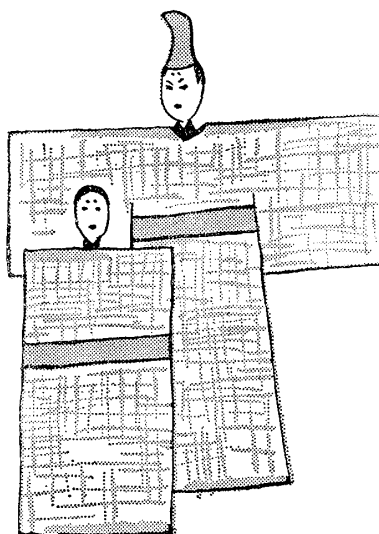
⑩青島雛（宮崎県青島）

安産・縁結びのお守りとして青島神社から授けられる。これを神棚に祀っておくと出産軽くすむという。頭は土製で、竹の串をさしそれに紙を着けたもので、男女の紙雛である。男の雛は金紙の鳥帽子をかぶり、また帯も金紙を使い、衣裳は赤い縞模様の紙製である。

青島神社は彦火々出見尊（瓊々杵命の子、山の幸を支配し、兄火照命が海の幸を支配し、その分掌のことから争いが起った神話へ山幸彦海幸彦はよく知られている）、豊玉比売（海神の娘で彦火々出見尊の妻）、塩筒命（二神の縁結びの神）の三柱の神を祀る。

土製のものは安価なうえに、節句ののりの飾り雛として、または子どもの遊び道具にまで普及

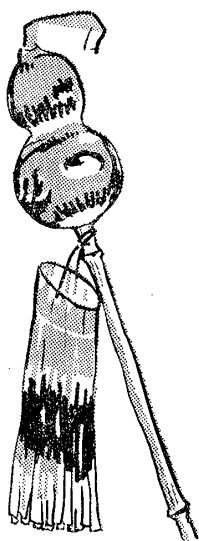
し、なかでも盲人形(着せ替え)などは、女の子にとってなによりの玩具であったであろう。



⑪ ぼんぼこ槍 (宮城県仙台)

仙台市内の国分寺木下薬師の境内で、毎年旧暦三月三日の祭礼に売られる玩具で、これを買って安産のお守りとする。

竹の先に、紫地に花模様を描いた瓢箪をつけ、五色の紙の吹き流しをつけたものである。



⑫ 萩日吉神社の猿 (埼玉県比企)

旧正月の一五日に授与されるもので、子無き者

これを神棚に祀り祈願すれば子を得るといふ。子を得た後、一体を手作りして二体として同神社に奉納する。

猿といっても丸木にただ顔を描いたものにすぎず、実に素朴な人形である。

彩色も朱・青・墨でなされ、表現も自由である。

遠方の参詣者の便宜をはかり神社では時を限らず求めに応じて授与している。



⑬ 起 姫 (福島県三春)

頭がとがっていて顔の表現描写も簡単で、素朴な感じのする姫だるまである。

家族の人数より一つ多く買い求めて神棚に供え、子宝を多く得て、子孫の繁栄するように祈ってきたものである。

⑭ 卯 槌 (東京都亀戸)

亀戸天神境内の妙義神社の正月初卯の日と、亀

戸天神うそ替え神事(木彫りの鷺うそ燕雀目、

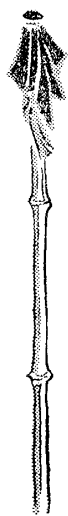
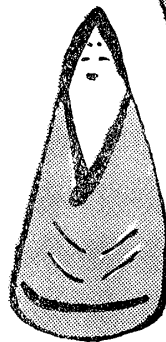
雀科の美麗な小形の鳥で、きれいな声で鳴く)を

神社に持参して取替えてもらうもので、これを神

棚に飾る)の両日に神社から授かり、これをもつ

て子無き婦人を打てば必ず子を得るといふ。

八角形に棒状に桃の木を削り(六角形のものもある)先端を赤白黄三色、または紅白の紙をかぶ



せ、五色の糸でしぼり、一面おきに松、竹、梅を描き、他の面は緑色に塗ってある。

また六〇センチ余りの細竹の先端を紅白の紙をかぶせ、五色の糸でしぼったものを「卵杖」といつて授けているが、「卵槌」と「卵杖」はもともと同一のものであろう。

※本資料は「縁喜に関する玩具図譜」に拠るところが多かったが、この他にも独自に採集した「妊娠・出産」に関する縁起玩具だけでも三〇数種あり、さらに「育児」に関する縁起玩具にいたっては、未だ分類整理の過程だが、手許の資料だけでもその数二〇〇種余に及んでいる。さらに採集をすすめれば縁起玩具の総数は尨大な数になることが予想される。

△参考文献▽

- 郷土玩具 牧野玩太郎・稲田年行（読売新聞社）
- 日本のおもちゃ 山田徳兵衛（芳賀書店）
- 日本民俗学全集 藤沢衛彦（あかね書房）
- 日本の郷土玩具 永田久光（創元社）
- 日本の郷土玩具 木下亀城（保育社）
- 十二支―郷土玩具から―斎藤良輔他（朝日新聞社）
- 縁喜に関する玩具図譜 尾崎清次（笠原小児保健研究所）
- 日本の年中行事 塩田 勝（金園社）
- 日本のおもちゃ 斎藤良輔（岩崎美術社）
- （しま ひろし 児童文化）